



初めての マレーシア

ロングステイに役立つ
心の持ち方

nana

はじめに

はじめまして。

私はマレー系マレーシア人と国際結婚をし、クアラルンプール近郊に17年間住んでいます。

最近、日本のメディアでマレーシアでのロングステイを紹介される機会が増え、実際に長期滞在や移住される日本人の方を多く見かけるようになりました。

マレーシアでの生活を楽しんでいらっしゃる方がいる一方で、中には憧れの南国生活への期待に胸を膨らませてやっちは来たものの、日本との違いにイライラしたり、がっかりしたりしている方もいらっしゃるのではないかと思います。

この本では、私がマレーシア生活17年の経験から得た、マレーシアで暮らす為に役立つ、ちょっとした心構えやよくあるトラブルなどをまとめました。

書いてある一つひとつが、私が身をもって体験し、会得したものです。

私のつたない経験が、これからマレーシアで暮らそうという志をお持ちの方のお役に立てればというのが、この本を書いた動機です。

少しでも参考になれば幸いです。

マレーシアについて

マレーシアは赤道近く、東南アジアの中心、マレー半島とボルネオ島の一部から成る国です。国土面積は33万338平方メートル。国土の約60%が熱帯雨林で覆われています。

20世紀初頭は錫鉱脈の採掘ラッシュとゴムのプランテーションで中国やインドから大量の移民が流れ込み、

第2次世界大戦後イギリスの植民地から独立、更にシンガポールの分離独立を経て現在の国となりました。

1980年代からはルックイースト政策を挙げ、日本や韓国を見本に工業立国を目指しました。

80年代から90年代にかけて日本の企業が多数進出し、東南アジアにおける製造業の生産拠点となりました。

2000年頃からは国を挙げてのIT政策に乗り出し、現在ではITの他にイスラム教徒用の食材、ハラールフードの生産拠点として、また東南アジアにおけるイスラム金融の中心地として注目を浴びています。

観光や長期滞在プログラムにも力を入れており、医療と観光を組み合わせた富裕層向けの医療ツーリズムプログラムや、リタイヤ後の長期滞在「マレーシアマイセカンドホーム（MM2H）プログラム」などが外国人に人気です。

①首都

クアラルンプール

②人口

人口2830万人

民族構成：マレー系、中国（華人）系、インド系、ユーラシアン系、オランアスリ（マレー半島の先住民族）、ボルネオ島の少数民族など多数の民族から構成された多民族国家です。

③言語

公用語はマレーシア語（マレー語）。各民族はそれぞれの民族の言語を使用することが多い。華人系は広東語、福建語、客家語など、インド系はタミール語やパンジャビ語が多く使用されています。

通常会話では英語を使うことも多く、特に都市部では英語が問題なく通じます。

④宗教

国教はイスラム教。信仰の自由が保障されているため、多民族国家を反映して宗教もイスラム教

の他仏教、道教、ヒンズー教、キリスト教と多彩です。

⑤気候

熱帯雨林気候。年間の日中平均気温は27～33℃。1年を通じて常夏の気候。

キャメロンハイランドなどの高原では日本の春秋くらいの気温です。

また、雨量が多く、日本のゲリラ豪雨のようなスコールと呼ばれるにわか雨が降ります。

スコールは短時間に大量の雨が降るので、あっという間に道路が冠水し、都市部では交通が大渋滞になることがあります。

マレーシアは雷の発生率、落雷率が高い国。落雷は世界5位という高率なので、雷鳴が始まったらただちに戸外の活動を止め、屋内に避難したほうが良いでしょう。

⑥服装

熱帯雨林気候のため、1年を通じて常夏の服装で大丈夫です。

ただし、タクシーやバス、建物の中は冷房が効きすぎていることがあります。

日焼け防止もかねて、長袖の羽織れるものを用意しておいたほうが良いでしょう。

基本的には夏のカジュアルな服装で大丈夫ですが、イスラム教国のため公的な場所、モスクの見学、結婚式などは肌を露出しすぎない服装が好ましいです。

⑦住宅事情

マレーシアでは一戸建てはバンガローと呼ばれます。何軒かの家がくっついて建てられているリンクハウスと呼ばれる家も一般的です。都市部では集合住宅に住む人も多く、価格が低いほうから順にフラット、アパートメント、コンドミニウムと呼ばれます。

コンドミニウムはいわゆる日本でいうマンションにあたり、入り口にガードマンがいることが多いです。

日本人が多く住む地域は、クアラルンプール中心部の他、中心部からやや外れたタマンデサ、タマントウンドクターイスマイル、モントキアラなどです。

これらの地区にあるコンドミニウムは家賃も高く、施設やセキュリティも充実しています。

ただし、マレーシアは近年治安が悪くなってきています。ガードマンがいるからといって安心せず、入居したら鍵を付け替えるなどの自衛も必要です。

また、外国人向けの地区ではめったに起こりませんが、ローカル向けの住宅地では断水や停電が頻繁に起こります。こういった地域に住む場合は常に水や懐中電灯などを備えておくことも必要です。

1. 外国に住むという自覚を持つ

魅力的な長期滞在先として、この数年マレーシアが人気を呼んでいます。親日的な国で治安が良く、物価が安くて日本食も何でも手に入る。定年退職後の憧れの南国暮らしや親子留学にぴったり！私もマレーシアに住んでみたい！移住したい！

夢が膨らんで、1日も早くマレーシアに住んでみたくなる気持ち、よく分ります。でも、少し落ち着いて考えてみて下さい。

長期滞在をするということは、そこで生活をするということ。

数日の旅行と違い長期滞在となると嫌でも現地の生活と密着せざるを得なくなります。

まして、駐在員ではなく個人でマレーシアに滞在する場合は、全ての責任は個人個人、つまりあなた自身にかかってくるのです。

当たり前のことですが、マレーシアは外国です。

日本と違うところがあって当たり前なのです。

数日間の旅行では面白く思えた日本との違いも、長期滞在では超えなければならないハードルとなってあなたの前に立ちふさがるかもしれません。

そうなった時に、あなたはどうしますか？

日本じゃこんなことありえない、どうしてマレーシアではこうなんだ！と怒りを爆発させますか？

それとも、自分は日本人だから、マレーシアのルールや習慣なんて関係ない！と私流を貫きますか？

あるいは現地の事情をよく調べて、自分で出来る限りの対応を試みるでしょうか。

あなたのマレーシア滞在をより良いものにするために、どんな選択をするか、選ぶのはあなたです。

外国に住むということは、他人の家に長期間居候するようなものです。

他人の家に居候する時に、自分の家と全く同じルールが通用すると思っっている方はいませんよね。

他人の家なのに、我が家と同じように振舞うでしょうか。

その家の人や、何もかもやってくれることを期待するでしょうか。

まずは、マレーシアが外国であることをしっかり自覚する。

一歩家を出れば、そこは外国です。

どんなにマレーシアが親日的な国であっても、各種日本語サービスがあっても、当然マレーシアの法律、文化、常識が優先されます。

日本の常識はマレーシアの常識とは限りません。日本と同じようにはいかないことが多々ある、ということをまず覚えておいてください。

最初はカルチャーショックが大きいと思いますが、そのうちに違いを楽しめるようになったらしめたものですよ。

2.主体性を持つ

あなたがマレーシアに住みたい理由は何でしょうか。

定年退職後のリタイア生活ですか？あるいは外国で働いてみたい、留学したい。

もしかしたらマレーシア人と結婚するから、という方もいらっしゃるでしょう。

理由は人それぞれだと思いますが、「マレーシアに住む」ことを決めたのは他の誰でもない「あなた」です。まずはそれを忘れないで下さい。

自分自身で「マレーシアに住む」と決めたのですから、マレーシア滞在のあらゆることに積極的にかかわっていきましょう。受身では誰も何もしてくれません。

マレーシアは確かに親日的な国ではありますが、街中で日本語は通じません。有名ホテルや大きな病院、日本食のレストランなどに日本人あるいは日本語が分かるスタッフが常駐しているところもあります。しかし彼らはあくまでも、日本人客全体へのサービスの一環としてそこで働いているのであって、特定の個人客の召使ではありません。サービスはあくまでも「主体性をもって利用する」もので、何もかも自動的にお世話してくれるものではないのです。

まずは「誰かが何とかしてくれる」「おまかせしておけば大丈夫」という依存心を捨てましょう。誰かが何とかしてくれると思うから、期待が生まれてうまく行かない時に余計腹が立つのです。また、例えばエージェントに何かをお願いしたとして、任せっぱなしでは気が付かないうちに思わぬトラブルに巻き込まれるかもしれません。自分でできないことをサービスを利用したり、誰かの力を借りて解決するのと、丸投げしてやってもらおうとするのは全然違います。

まずは自分で考え、判断し、自分では難しい部分は適切に助けを求める。結果については自分が責任を持つ。せつかく外国に住むという決断をしてマレーシアに来たのですから、海外生活を自分でクリエイトするという気概を是非持っていたきたいと思います。

「住めば都」と言いますが、その土地が自動的に都になるわけではありません。自分の力で、自分の住むところを素晴らしい都にしていきましょう。

3.日本の生活のスライドを期待しない

外国に住んでいると、つくづく日本ほど便利な国は無いなあと感じます。

特に何でもネットでポチ！できる最近、あらゆることが「手軽に」「簡単に」

「スピーディに」解決するのが当たり前になっているのではないのでしょうか。

情報量の多さ、与えられるサービスの量も格段に多いと感じます。

その分、何でも「やってもらって当たり前」「与えてもらって当たり前」な依存心の強さも日本人の特徴だと感じることもしばしばです。

マレーシアもここ数年で劇的にインターネット、スマホが普及しましたが、トータルの情報量の多さやサービスのきめ細かさは日本に遠く及びません。

もともとマレーシアはのんびりした気質の国。日本のようにシステムチックな国ではありません。スムーズにことが運ぶことを最初から期待しないほうが良いでしょう。

ちなみに、マレーシアで生活していて日本人がイラっとくることベスト3はこの三つです。

1. 時間にルーズ
2. 期限を守らない
3. 人によって言うことが違う

マレーシア時間は「ゴム時間」。しかもこのゴムは伸びっぱなしで縮むということがありません。約束の時間になっても来ないことは当たり前、納期などの期限を守らないことも当たり前。しかも「遅れます」という連絡が無いのもこれまた当たり前。

例えば、マレーシアの生活に必須！のエアコンが壊れて修理人を呼んだとします。約束は午後1時。ところが1時半になり2時になっても一向にやって来ません。電話をしてみると、他のお客さんの修理に時間がかかったため、もう少し遅れるということ。

「遅れるなら電話してくれてもいいのに！」と思いつつ更に待っていると、3時にやっと修理人がやってきたら…おめでとうございます！あなたはラッキーです。

運が悪いとそのまま待ちぼうけで、どうなってるんだ！ともう一度電話すると「雨が降って渋滞がひどいから今日は行けない。」とサラっと言われる始末…。

まあ、全部がこんな人ばかりではありませんが、マレーシアではよくある話です。（私も散々こんな目に逢いました）

どんなに相手を怒っても相手が変わることはまず無いので、「マレーシア時間はゴム時間」と腹をくくって、なるべくイライラしないように対策を練るしかないですね。

繰り返しますが、日本は世界一決め細やかで正確なサービスが受けられる国です。外国で日本並みのサービスを期待するとイライラします。

自分でひとつひとつクリアするから面白い、と捉えて臨機応変に対応していきましょう。

4.異文化の中で暮らす

マレーシアに住んでいると、本当に色々な人がいるなあと感じます。

国籍は「マレーシア人」でも、大きく分けてマレー系、中華系、インド系と3つの人種があり、オランアスリと呼ばれる原住民もいるし、東マレーシアにもいろんな少数民族がいます。同じ人種でも中華系は広東系、福建系、客家などがあり、インド系も南インドから来たタミル系とインド北部出身のパンジャブ系があり、マラッカには大航海時代から続くポルトガル人の末裔が住んでいます。最近では各国から出稼ぎに来ている外国人労働者が激増し、更に宗教となるとイスラム教、仏教、キリスト教、ヒンドゥー教、道教などなど...

もう、ありとあらゆる人種と宗教の見本市、みたいな国なのです。

こういう国に住んで感じるのは、日本のような「単一民族」の国のほうがむしろ例外的なのだろうな、ということ。

日本では「常識」という名の「暗黙の了解」があり、そのルールに従わないと社会から爪弾きにされることになります。KYとかいうのもそうですね。

ところがマレーシアでは、そもそも違って当たり前なのですから、「暗黙の了解」というのが成立しないのです。マレーシア人は基本的に皆KYです。（笑）というか「空気を読む」という思考が無いのです。

「皆同じで当たり前」の国と、「皆違って当たり前」の国
全く逆なのですから、生活するにあたって当然違うアプローチが必要になります。
そのいくつかを次を書いておきます。

1. 違いをそのまま違いとして受け入れる柔軟性、寛容性

もともとバックグラウンドが「違って当たり前」の国。
マンションの隣人同士でも民族が違うのが当たり前、のマレーシア。
どうして違うんだ！とイライラしても仕方ありません。違うものは違う、と一旦そのまま受け入れてしまったほうが気持ちが楽になります。

その上で分からないことは素直に聞きましょう。例えば食べ物。マレーシアでは宗教によって食べ物のタブーがぜんぜん違います。人を招待する時など、悩むより「何か食

べられないものがありますか？」と素直に聞いてしまったほうが簡単です。

2. 主張すべきことははっきり主張し、分からないことは聞く主体性

自分が主張すべきことははっきりと主張しましょう。マレーシアでは相手が「察してくれる」ことはまずあり得ません。「遠慮が美德」という考えもあまりありません。だからと言って、傍若無人に振舞うことと上手に自己主張することは違います。ぐずぐずと悩んだり、言葉が不自由だからと相手の言うがままになる必要はないのです。言いたいことははっきり言いながら、マレーシア人と上手にコミュニケーションを取ってゆきましょう。

3. 相手のプライドや宗教的なことに踏み込まない節度

マレーシアは「親日的」な国です。「親日的」ということは「日本という国に反感を持っていない」という意味で、決して日本のことを手放しで大好きな訳でも、日本のことを尊敬している訳でも無いのです。

実はマレーシア人は人種を問わず、マレーシアという国に誇りを持っています。彼らの前でこれ見よがしに日本の自慢をしたり、マレーシアをバカにしないようにしましょう。もし日本にいる外国人が自国の自慢ばかりしていたり、日本をバカにしたらどんな気持ちができるか想像してみてください。

また、それぞれの民族が信仰する宗教に対する敬虔さ、誇りも大変強いのです。宗教的な対立は民族対立に繋がりやすいため、マレーシアでは宗教は大変センシティブな話題です。日本人には馴染みの薄い宗教もあり、分からないことを失礼のないように尋ねるのは構いませんが、安易に宗教を批判したり、バカにしないよう気を付けましょう。

宗教と共に気を付けなければいけないのは、マレーシア人のプライドを傷つけるような言動は慎むということです。マレーシア人は一般的に穏やかな人が多いのですが、プライドは非常に高いです。特にマレー系は人前で恥をかかされるのを非常に嫌います

。マレーシア人を人前で怒鳴ったり怒ったりするのは慎みましょう。（もちろん緊急事態は別ですが）

マレーシアに限らず、外国ではよくあることですが、相手に非があるような場合でも、なかなか謝罪をしない人が多いです。そういった場合でも、なるべく人前で相手を怒鳴りつけるようなことは避け、できれば場所を変えて第3者立ち合いの上で話し合いをするのが望ましいです。

色々を書きましたが、異文化が混在しているマレーシアはお祭りもたくさんあります。これがマレーシアを面白くしているひとつでもあります。マレーシア人は自分の家に人を招待するのが好きなので、仲良くなれば旧正月やハリラヤなどに家に招かれることもあるかもしれません。そういう時こそ、異文化を体験する絶好のチャンスです。是非どんどん出かけて、上手にコミュニケーションを取り、マレーシアを知っていただきたいと思います。

5.最低限の語学力を身に着ける

マレーシア政府は1980年代から90年代にかけて、「ルックイースト政策」を掲げ、多くの研修生を日本と韓国に送り出しました。

その後、多くの日本企業がマレーシアに進出したこともあり、一気に日本語学習熱が高まりました。その後長引く日本の不況と、世界的な経済ショックの影響などで撤退または第3国に移転する企業が続出し、日本語学習は一時期下火になったように感じます。とはいえ、大きなホテル、有名私立病院や日本食レストランでは日本人または日本語の分るマレーシア人スタッフがいることが多いです。

しかし、旅行ではなく長期滞在するとなると、やはりあらかじめ最低限の英会話程度は習得しておく必要があります。家を一步出ればそこは外国で、買い物に行くのもお医者さんにかかるのも言葉が通じなくてはどうにもならないからです。

日本人や日本語の分るスタッフがいつもいるとは限りませんし、通訳を頼むのもお金がかかります。いざ！という時に自分を守れるのは自分だけなのです。そういう意味でも英語で最低限のことだけは伝えられるようにしましょう。完璧な英語である必要はありません。

マレーシア人も誰もが英語を上手く話しているように聞こえますが、公式の場やビジネスシーンとはもかく、日常会話の英語は実はマレー語の影響を受けた「マレーシアンイングリッシュ」を話しています。更にマレー系はマレー語訛り、華人系は中国語訛り、インド人はタミール語訛りのある英語の発音とイントネーションです。それでも誰も恥ずかしくならず、堂々と英語で話しています。

マレーシアの日常英会話なら、中学生程度の文法が分れば充分です。あとは語彙を増やす努力をすれば何とか生活できます。最近は電子辞書やスマホのアプリという便利なツールもあります。使えるものは何でも使って、自分で言いたいことを英語で表現できるように挑戦してみましょう。言葉が出来ると、行動範囲も広がっていろんな体験ができますよ。

現地の生活とうまく溶け込んで自由に行動し、異文化を体験する。これこそ外国で暮らす醍醐味ではないでしょうか。是非、積極的に挑戦していただきたいと思います。

前章では、マレーシアに住むためにしておいたほうが良い心構えについて述べました。この章ではマレーシアで実際にあるトラブルなどについてご紹介します。

海外に住んでいて困るのは何と言っても病気と犯罪に逢った時ではないでしょうか。どちらもあまり逢いたくないものですし、自分は大丈夫と思いたいものです。しかし、いつ病気になったり犯罪に巻き込まれたりするかは誰にも分かりません。まさかの時のために、マレーシアの病気と犯罪について最低限知っておいたほうが良いことをご紹介します。

1. マレーシアでかかりやすい病気

①デング熱

都市部で特に問題になっている病気です。蚊が媒介するため、なるべく蚊にさされないよう虫刺され対策をすることが一番の予防です。

症状は風邪に似ており、高熱、倦怠感、関節の痛みなどがあります。症状が進むと発疹が出て、目の粘膜などから出血します。更に症状が進むと内臓出血を起こし、死に至ることも少なくありません。

日本人には馴染みのない病気のため、風邪だと思って風邪薬を飲み続けているうちに症状が重篤化したケースもあります。高熱が続いたら迷わず受診し、血液検査を受けましょう。

血小板値が下がっていたら即入院となります。

ちなみに熱帯の熱病として有名なマラリアは都市部ではほとんど発生の報告がありません。日本脳炎は数年前一部の地域で流行しましたが、現在は流行の報告はありません。

②風邪

たかが風邪、されど風邪。

マレーシアの風邪は日本の風邪よりも症状が進みやすく、高熱が出る風邪です。

熱帯で風邪のウィルスも元気がいいのか。朝ちよつと喉がいがらっぽいと思ったら、どんだん寒気がしてきてお昼には熱が出て寝込む、といったことも珍しくありません。またいったん発熱すると長引くのが特徴です。

熱が出たら市販の風邪薬ではなく、クリニックや病院に行きましょう。

なお、マレーシアの薬は日本のものよりも強いようです。薬の服用により異常が感じられた場合は直ちに医師に報告しましょう。

③食中毒、急性胃腸炎（下痢・食あたり）

暑い気候なので食物が傷みやすく、食あたり、食中毒には十分な注意が必要です。特に不衛生な屋台での食事は避けましょう。

また、ローカルの人がよく使う言葉で「Gastorick（ガストリック）」というのがありますが、日本で言う胃酸過多症にあたるようです。食後1－2時間以内に発症することが多いようです。キリキリした胃の痛みと膨満感で大変不快な症状です。ガストリックには胃酸を抑える薬や痛み止めが処方されます。

マレーシアの料理は油とスパイスを大量に使ったものが多く、慣れないうちは胃腸に負担がかかります。暴飲暴食に注意しましょう。

④A型肝炎

筆者の周りではA型肝炎にかかったという話は聞いたことがありませんが、海外生活が長くなる場合は予防接種を受けてからマレーシアに来るほうがいいと思われます。

A型肝炎の予防接種はマレーシアの病院でも受けることが可能です。

2. 病院、医療システムについて

マレーシアには日本の国民健康保険のような制度がありません。医療費は基本的に実費です。

医療保険は自分で民間の保険会社の入院保険を買うか、会社が保険に加入している場合はその保険会社が指定した医院（パネルクリニックという）での受診となります。

旅行者の場合、クレジットカードや保険が無いと私立病院で診察を受け付けない場合がありますので、海外旅行保険の加入は必須です。

【マレーシアの医療機関】

マレーシアの医療機関は大きく分けて3つあります。

- ・ クリニック
- ・ 政府系病院
- ・ 私立系病院

【クリニック】

いわゆる「医院」。町のお医者さんです。おおまかに一般医（ジェネラル）と専門医（スペシャリスト）のクリニックに分かれます。一般医は風邪や食あたりなど一般的な症状、簡単な外科処置などを行います。初診時には登録のためパスポートが必要です。医療費風邪で抗生剤をもらった場合で60～100リングットくらいが目安。レントゲン撮影や血液検査などはその都度別料金がかかります。

大きな病院の専門医にかかる時の診断書も出してくれます。政府系病院にかかる時は、必ず一般医からのレターが必要となります。私立病院はこの限りではありません。

専門医は眼科や婦人科、小児科、眼科などです。一般医と比べて専門医の診察料は高めです。

【政府系病院】

「GH」（ジーエイチ、ジェネラルホスピタル）と呼ばれる政府系の病院です。

マレーシア人なら診察費は数リングット、薬代は無料ですが、外国人はマレーシア人の倍以上の料金になります。

医療費が実費でも、低所得層の国民が医療を受けられるのは政府系の病院や医院が格安の医療費で医療サービスを提供しているからです。

ただし、その分患者が殺到するのでいつでも混み合っています。

待ち時間が長い、患者へのサービスが皆無ということで、外国人が政府系病院を利用することは稀です。

【私立病院】

大きな私立病院は設備も良く、施設もきれいでサービスもいきとどいています。こうした私立病院には欧米の医学部を卒業した医師が多く、医療技術も高いので安心して受診できます。日本人または日本語が分かるマレーシア人の通訳やコーディネーターが常駐している病院もあり、在留邦人の利用率も高いようです。日本人通訳のサービスを受けるには、あらかじめ予約が必要です。各私立病院のホームページなどに案内がありますので、万が一日本人通訳が必要な時のためにチェックしておきましょう。

日本の病院と違うのは、私立病院で診療をしている専門医は病院に属しているのではなく、病院内に自分のクリニックを「間借り」して自分のクリニックを開業していることです。検査や手術の設備は病院のものを使用します。

マレーシアは先進医療と観光を組み合わせる外国人を誘致する「ヘルスツーリズム（メディカルツーリズムとも言う）に力を入れており、最先端の医療技術の導入や患者へのサービス向上などに積極的に取り組んでいます。ただしこうした私立病院の医療費は高額なので、医療保険加入は必須です。

3. 犯罪

「マレーシアは安全な国」と言われていますが、それは「東南アジアの近隣諸国に比べて」安全ということなのです。

実はマレーシアの犯罪率は殺人事件で日本の2.7倍、強盗事件は実に25倍です。最近では性犯罪も増えており、深夜に女性が一人で歩ける日本はやっぱり奇跡的に安全な国なのです。警察の発表では、ここ数年でマレーシアの犯罪率は下がってきているということですが、身近なところで起きる犯罪は増えているように感じます。

ここではよく発生している犯罪の例と簡単な対策をいくつか紹介します。

1. ひったくり

クアラルンプールに長年住んでいて、本当にこの数年の間にひったくりが激増したと感じます。

典型的な手口は、二人乗りのオートバイが後ろから近づいてきて、追い越しざまに歩行者が肩にかけているバッグを奪って逃走するというもの。

クアラルンプール市内でひったくりが多発しているのはKLCC周辺、ブキッ・ビンタン、ミッドバレーなど。クアラルンプール以外の観光地でもひったくりが増えているようです。また、繁華街だけではなく、最近では普通の住宅街でも頻発しています。

対策としては歩道を歩く時はなるべく路肩から離れて歩き、バッグは車道側の肩にはかけないようにする。旅行者の場合、パスポートはホテルのセーフティボックスに預けて持ち歩かないようにする。

万が一ひったくりにあったら抵抗しないこと。

抵抗すると殴られたり、引きずられて思わぬ怪我をする場合があります。

打ち所が悪く、亡くなられた方も実際いらっしゃいますので、くれぐれも抵抗しないことが大事です。

2. 車上荒らし

車社会のマレーシア。移動に車は欠かせません。

駐車するときは車の中にバッグなどを置きっぱなしにしないこと。見えないから大丈夫だろうとトランクにしまっておいたパソコンを盗まれるケースも多いので、パソコンは絶対に車中に置かないこと。

最近では運転中の車上荒らしも頻発しています。狙われるのは一人で運転中の女性が多いようです。

助手席に置かれたバッグを狙い、二人乗りのバイクで後をつけてきて、信号待ちで停車したわずかな時間にボールなどで助手席側の窓ガラスを叩き割り、バッグを盗んで逃走するのが手口です。助手席側にバッグを置くなら、座席の上でなく足元側に置きましょう

その他、後ろからわざと追突してきて、驚いて車を停車し、降りてきたところをナイフなどで脅して車を奪って逃走する手口もあります。特に夜や人気の無いところでいきなり追突された場合は要注意です。驚いてそのまま停車したり下車したりせず、人気のあるところまで車を走らせましょう。

3. いかさま詐欺

以前に比べ減ってきたように思いますが、いかさま詐欺も時々起こっているようです。

繁華街で観光客に「日本の方ですか？実は妹が日本に留学していて、たまたま今帰ってきています。よかったら私の家に来ませんか？」とフレンドリーに誘って、家へ招待し、頃合を見てトランプのブラックジャックをしようと持ちかけます。最初は普通のゲームで、次にお金をかけようと言われ、数回勝って気分が乗り、掛け金が上がってきたころに負けになるよう仕組まれます。

気がついたときには、惨敗してお金を払わされる、というのがパターンです。

手持ちのお金がない時は、知り合いだという宝飾店に連れて行かれ、金製品を買わされるという場合もあります。実際はクレジットカード支払いをさせるだけで、金製品は渡さないのが手口です。中には被害額が数百万円に上るケースも。

対策としては、とにかく知らない人には安易についていかないこと。これに尽きます。

4. インターネット詐欺（振込み詐欺）

最近激増しているのがインターネット詐欺。特にフェイスブックなどのSNSを使った「ロマンス詐欺」と呼ばれるものが横行しています。

SNSで知り合った欧米系のイケメン（または美女）とチャットなどを通じて仲良くなり、ある日その相手から、「あなた宛てにプレゼントを送ったが税関で止められている。

荷物を引き出すのに罰金を支払わなければいけない。」などの連絡が入ります。

「あなたとの結婚資金を送金した」「旅先で病気になり入院している。現金もカードも盗られてしまったので助けてくれ」など手口は様々ですが、いずれも送金を無心してくるのが共通しています。

ロマンス詐欺の影には外国人のシンジケートが存在すると言われていています。彼らは巧みにストーリーを作り上げ、もっともらしい書類を用意しています。かわいそうに思って一度送金すると、何度でも送金を無心してきます。ネットで知り合った程度の相手に送金を頼まれたら、まず詐欺だと思って連絡を絶つのが一番です。たとえSNSやメールに添付された写真がどんなにイケメン（美女）でも、未練を持たないほうが賢明です。写真はいくらでも偽造できますから、チャットしている本人が写真のイケメンとは限らないのです。

繰り返しますが、チャット程度で実際会ったことがない人間がお金を無心してきたら即連絡を絶つことがあなたを守ります。

5. ぼったくりタクシー

クアラルンプールを中心とした都市部のタクシーは、年々質が落ちていると感じます。マレーシアのタクシーは大きく分けて日本のハイヤーに相当する青い車体のものと、普通のタクシー（赤と白の車体が多い）があります。

KLCCやブキッピンタン界隈の流しのタクシーは、マレーシアの事情を良く知らない観光客を狙って法外な値をふっかけるものが多くあります。悪質なケースでは、お金を出さないと分かると刃物などで脅して金品を強奪する「強盗タクシー」も出現しています。

6. 強盗

留守宅を狙う空き巣、暗い夜道や人気の無い通りなどで通行人を襲う強盗なども頻発しています。マレーシアの強盗はパランと呼ばれる牛刀のような大振りの刃物を持っていることが多く、切りつけられると大怪我をする可能性があります。

危険を避けるためにも、暗い道や人気の無い通りは歩かない。家には複数の鍵をつける、鍵は時々取り替えるなどの対策が必要です。万が一強盗にあったら、抵抗しないこと。身の安全が一番大事です。

7. スリ、置き引き

昔ながらの手ではありますが、スリや置き引きも相変わらず多いです。スリはショッピングセンターのエスカレーターやエレベーターで集団でターゲットを囲んで犯行に及んだり、ケチャップなどをかけて注意を引いている隙に貴重品をスリとるケースが多いです。

財布はパンツの後ろポケットに入れないことと、手荷物は絶対に置きっぱなしにしないこと。ちょっと足元に置いておいたバッグがあつという間に盗まれたケースもあります

。

ポリスレポートの作り方

万が一事故や犯罪に逢ってしまったら、まずは何をおいてもポリスレポートを作成しましょう。

クアラルンプール市内で犯罪に逢った場合、旅行者の場合はジャランアンパンのMATIC（ツーリストセンター）内にあるツーリストポリスでレポートの作成が出来ます。

Tourlist Polis Kuala Lumpur

Tel: +60-3-2163-4422

在留邦人の方でしたら、最寄の警察署で作成することが出来ます。

ポリスレポートは基本的に事件発生後24時間以内に警察署に行き作成すること。作成にはパスポートが必要です。

事故などで入院している場合には、退院してから本人が警察に行き作成します。

病院によっては警察官が常駐しているところもあります。その場合は病院常駐の警察官に相談してください。

【ポリスレポートの作成方法】

1. ポリスレポートのカウンターでパスポートを提示し、事件の内容を担当警察官に話して作成してもらいます。

事件、事故に逢うとショックですし、気が動転して大事なことを言い逃すかもしれません。

出来れば次のことについて簡単な英語のメモを作っていくと良いでしょう。

- (1) 事件発生時刻、場所
- (2) 事件の経緯、詳細
- (3) 盗られた物品の詳細と個別の金額、被害総額

レポートは基本的にマレー語ですが、英語で作って欲しい場合は担当官に相談してください。ただし、英文で作成してくれるかどうかは担当官しだいです。

文書は担当官が作成し、プリントアウト前にPC画面を見せてくれますので必ず内容を確認しましょう。（マレー語の場合は確認が難しいかもしれませんが...）

2. 事件発生現場から離れた警察署でポリスレポートを作成すると、現場を管轄する警察署に連絡が行き、場合によっては現場を管轄する警察署から出頭要請があるかもしれません。

これは捜査ファイルを開くために管轄署で別のレポートを作成するためですので、先に作成したレポートとパスポートを持っていきます。

事件の捜査には時間がかかりますし、レポートを作成したからといってすぐに事件解決に結びつくわけではありません。取られた物品はまず出てこないものとして諦めるほうが賢明です。

ただし、保険の請求やその他、被害を立証するものとしてポリスレポートは必ず作成しておきましょう。万が一盗品が悪用された場合でも、故意に犯人に渡したのではなく、盗品だということの証拠になります。面倒くさがらず必ず作成するようにしましょう。

パスポートを失くした／盗られた

パスポートは外国であなたの身分を証明する唯一のものです。失くしたり盗られたりしないように細心の注意を払いましょう。ひったくりが多発している現在、旅行の場合はホテルのセーフティボックスに預けるなどして、なるべく持ち歩かないようにしましょう。マレーシアでは外国人も身分証明書携行の義務がありますので、パスポートのコピーを持っていると良いでしょう。旅行ではなくマレーシアに在留している場合も、パスポートのコピー（写真ページと滞在ビザのページ）を持ち歩くか、イミグレーションが発行したi（アイ）パスがあればiパスを携行すると良いでしょう。

なお、時々警察官により身分証明書確認を求められる場合があります。もしもパスポートを失くした時に身分証明書を求められたら、ポリスレポートを見せて紛失した旨を説明しましょう。

時折身分証明書を携行していないと分かると、罰金と称してお金を要求する警察官がいます。そのほとんどがニセ警官によるものです。本物の警官でも、その場で罰金を要求することは認められていませんので、お金を払う必要はありません。

万が一パスポートを失くしたり盗られたりした場合は、大使館や総領事館で新しいパスポートか渡航書（日本に直行便で帰るための片道書類）を発行してもらえます。ただし、戸籍謄本が必要だったり、色々な手続きが必要なので時間がかかります。場合によっては帰国の便を変更しなければいけないこともあるので注意が必要です。

繰り返しますが、パスポートは外国であなたの身分を証明する唯一の書類です。持ち歩きには細心の注意を払いましょう。

【新しいパスポート/渡航書の申請方法】

1. 警察に行きポリスレポートを作成する
 2. 日本の家族などに連絡をし、戸籍謄本を取り寄せる手配をする。
- 原本をマレーシアに送ってもらうか、スキャンしてメールするかはパスポートの再発行を希望するか、渡航書にするかによって違います。

3. 背景白のパスポートサイズの写真を2枚用意する。
4. 最寄の在外公館（大使館、領事館など）に連絡をする。
5. 在外公館に出向き、パスポートの再申請または渡航署の申請をする。
6. マレーシアのイミグレーションで出国のための手続きをする。

必要書類など詳しくは在マレーシア日本国大使館（03-2177-2600）、または在ペナン日本国総領事館（04-226-3030）などにお問い合わせください。

私がマレーシアに来る前、読み漁った本の中にこんな言葉がありました。

「マレーシアで生活するには、3つの「あ」が大切です。あせらない。あてにしない。でも、あきらめない。」

マレーシアに来てから、どうしよう！と困る出来事が起こったりイライラした時、この言葉が唯一の味方でした。

17年たった今でも、この言葉は日々の生活をする上での基本となっています。

何事にもものんびりとしたマレーシア。思うように物事が進まなくてイライラすることも多々あります。

でも、どんな時でも焦らず、他人を当てにせず、最良の方法は何だろうかと自分で考えることが大事なのです。

そして諦めずに行動し、時には腹を据えて待つ。

もしも本当にダメでも、結果を自分で引き受ける覚悟をする。

そうすると不思議なことに、助けてくれる人が現れたり、最終的にマレーシアならではの融通が利いて解決してしまったということも多々ありました。

この地で生活するようになって17年。

その間に知り合った日本人の方も大勢いますし、日本に帰国された方も大勢います。

希望に満ちてマレーシアに来たものの、1年もたたずに帰国してしまった方も、今もここで生活していらっしゃる方もいらっしゃいます。

マレーシアに来るのも、帰るのも、留まるのも個人の自由です。

そして自由には常に、自分の行動に責任を持つことと結果を引き受ける覚悟がセットになっている、というのが私の持論です。

責任と覚悟のない自由は、風に流される凧のようなものです。意志がなく風しだいどころまでも飛ばされてしまいます。

私がマレーシアに来た当時とは違い、今はインターネットで何でも素早く情報が得られる時代です。

マレーシアに関する情報も無数にネット上に上がっています。調べようと思えば何でも

調べることができます。

ですので、この本では生活のための「お役立ち情報」はあえてあまり載せず、むしろマレーシアで住むための心構えに重点を置いて書き上げました。

それは、どんな情報も取捨選択権は自分にあり、自分がしっかりしていなければ、情報に振り回されて終わるからです。逆に、自分がしっかりしていれば、多少うまく行かないことがあっても「これもまた経験」と思って次に活かすことができます。

せっかくマレーシアに住むのですから、皆様がしっかりと自分で責任をとり、マレーシアでの生活を実り多く充実したものにしていただきたいと心から願ってやみません。そのために私の経験が少しでもお役に立てればと思います。

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。

パプーのコメント欄またはメールでご意見、ご感想をお聞かせいただければ大変嬉しいです。

メールはこちらのアドレスまで

klnana0777@gmail.com

それではいつの日かまた、文章を通じてお目にかかれる日を心から楽しみにしております。

2014年8月

常夏のクアラルンプールにて

nana

マレーシアロングステイ

<http://p.booklog.jp/book/88039>

著者 : nana

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/nanakl/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/88039>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/88039>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ